

酒類ガイドライン遵守推進本部だより

ほろにか

平成26年12月18日
全国卸売酒販組合中央会
酒類ガイドライン遵守推進本部

「また、師走に思う」

委員 今泉 三千俊

12月年末のこの時期は、お世話になっているお得意先へのご挨拶に回るのが恒例である。月はじめから、営業担当者とともに回り始めた。

担当者が選んだ主要な得意先を訪問するわけだが、およそ20年前に私が他の業界からこの業界に転じてきた頃に比べると、訪問する店が今は4分の1になっている。

すでにご承知のとおり、酒類販売免許の規制緩和によって、多くの業種の小売り業者が参入して、酒類の販売量が分散し酒販店の販売力が著しく減少して、倒産、廃業によるものです。

酒類の販売場は増加しているが、小売組合に加入する新規免許取得業者は少なく、小売酒販組合を構成していた酒販店が減って組合が成り立たなくなっているのは、全国的な現象であることは、組合員の皆様は充分ご承知だと思います。

我々、卸酒販業界はどうでしょう？

酒専門である地域の卸酒販会社は酒販店の減少によって売上の基盤を大きく無くし競争激化が進み全国系大卸との提携、統合或いは廃業、倒産などで大幅に減少しました。

前号で戸田 善丈委員が寄稿されたように、中央会北九州支部の各組合も組合員の減少で財政基盤が弱体化し、今まで続けてきた組合の事業に支障が出始めて来ています。

数年前から（実際はもっと前から）北九州の3組合合併の要望が出ています。

もっと進んで管轄国税局の枠を超えての統合が出来ないか等の意見も出始めています。

それぞれの組合が抱える事情があり、具体的に進んではいませんが、時間はあまりないと考えています。

組合員である各会社とその取り巻く環境の急速な変化に対応し生き抜いていくために知恵を絞り、体を使って生き抜く努力をするのは当然です。組合が合併したとしても、それで一段落では決してありません。

生き抜く努力をしている組合員に役立つ支援が出来る組合にならなければ意味がないと思います。組合のあり方を真剣に考え直すことも重要だと思います。

街中に出ると衆議院選挙の候補者の大きな声が響いています。師走のただでさえ忙しく、慌ただしい時に選挙するなんていい迷惑だと、多くの人々が感じていると思います。迷惑は我慢するとして、選挙の結果この国の運営を任された方々は上流から下流まで行きわたる経済政策を迅速に実行して欲しいものです。

政策が浸透して中小企業が元気を取り戻せば、経済の良い循環が起きると思います。
一日でも早く好循環が始まり、中小企業である酒類地場問屋も知恵と活力が湧いてきて企業活動も組合活動も将来に希望を持って取り組むことが出来るようになることを心から願っています。